



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。



系統的に学習を積み上げていくことが大切です!!



小学校国語 の課題から

■ **根拠に基づいて自分の考えを
書く【B3三】**

1 子どもたちのつまずき

- ①自分の考えを書く→何を書いて良いのか分からない。
- ②自分の思ったことを経験や想像で書くことは出来るが、
根拠や叙述を基に自分の考えを書くことができない。
- ③言葉や叙述を取り上げてはいるが、その取り上げた叙述
を基に、自分の考えを書いていない。

2 指導に当たって

指導事項で、どの学年でどの内容を教えるかを確認

C読むこと	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
文学的 な文章 の解釈	場面の様子に ついて、登場人 物の行動を中心 に想像を広げな がら読むこと。	場面の移り変わ りに注意しながら 、登場人物の性格 や気持ちの変化、 情景などについて 、 叙述を基に 想像 して読むこと。	登場人物の相互 関係や心情、場 面についての描 写を捉え、優れた 叙述について 自分の考えをま とめること。
自分の 考えの 形成及 び交流	文章の内容と 自分の経験を 結び付けて 、自 分の思いや考 えをまとめ、発 表し合うこと。	文章を読んで 考 えたことを発表 し合い一人一人 の感じ方について 違いのあること に気付くこと。	本や文章を読んで 考えたことを 発表 し合い自分 の考えを広げたり 深めたりする こと。

各学年の指導事項を踏まえ、系統性を意識した授業を!!

小学校算数 の課題から

■ **割合(百分率の理解)
【B5(1)(2)】**

1 子どもたちのつまずき

- ①百分率の表す数値が理解できていない。
14%長くなる⇒○1.14 倍
×1.4 倍 ×0.14 倍
- ②基準量・比較量・割合の関係が理解できていない。
(比較量) = (基準量) × (割合)
14%長くなる⇒たし算やひき算を使っている。

2 指導に当たって

各学年での学習内容の把握

系統的に捉えることにより「学習の積み上げ」
が明確になり、学力の定着につながります!!
百分率を理解していく上で、百分率の学習まで
に、各学年での学習の定着が大切です。

①整数倍の理解 □の2倍⇒□×2

②小数倍の理解 □の1.5倍⇒□×1.5

分数倍の理解 □の $\frac{3}{4}$ 倍⇒□× $\frac{3}{4}$

※文章による表現と、式とがつながるように捉
えさせることが重要です。テープ図や数直
線を使って表すなど、工夫をした提示をし
ましょう。

③百分率の理解

・20% ⇒ □の0.2倍 ⇒ □×0.2

・20%増 ⇒ □の1.2倍 ⇒ □×1.2

・20%引き ⇒ □の0.8倍 ⇒ □×0.8

という考え方が定着できるようにすることが
大切です。

子どもの生活習慣確立のために「みえの親スマイルワーク」を活用しましょう!!



(スマイルリーダー養成講座の様子)

8月4日に、「みえの親スマイルワーク」の進行役となるスマイルリーダーの
養成講座を三重県 PTA 連合会等との共催で開催しました。保護者や教員、市町
の教育委員会や子育て支援の担当職員 57 名が受講し、アイスブレイクやワーク
の進め方を学びました。

PTA の研修会など保護者の方が集まる機会に、「みえの親スマイルワーク」を
活用して、子どもの生活習慣確立に取り組んでみてください。

※「みえの親スマイルワーク」は、ワークを通じて保護者同士が話し合い、
気づきを得て、つながり合うことのできるワーク集で、三重県の HP から
ダウンロードできます。

<http://www.pref.mie.lg.jp/SHOSHIKA/HP/m0074300031.htm>

「子ども支援ネットワーク」で自尊感情と学習意欲の向上を！

中学校区「子ども支援ネットワーク」では、学校、家庭、地域が連携し、家庭の経済状況等を背景に、学習環境が整わないなど、教育的に不利な環境のもとにある子どもたちの自尊感情や学習意欲の向上に取り組んでいます。

●「子ども支援ネットワーク」とは・・・

中学校区人権教育推進協議会を基盤に住民・保護者・NPO・企業等、多様な主体が連携し、教育的に不利な環境のもとにある子どもたちを支援する活動のことです。



取組例

人権学習を中心とした取組

だれもが安心して学び生活できる環境をつくる。

人権フォーラム、子どもたちによる人権劇、人権ミュージカル、親子人権学習会、人権コンサート、地域で人権活動をしている人からの聞き取り、卒業した先輩・社会人による講演会 等



体験的学習を中心とした取組

達成する喜びを味わい、将来の夢や目標をもてるようにする。



稲作体験、野菜づくり体験、養殖漁業体験、収穫祭・感謝祭、花壇・花苗づくり、親子星空観察会、地域でのキャンプ、祭りへの参画、地域清掃・除草作業、地域観光ガイド、昔の遊び体験、わらじづくり、しめ縄づくり、太鼓づくり、郷土料理、郷土探検、防災訓練体験、避難所設営体験、津波避難訓練、手話・点字体験、高齢者施設訪問、三世代交流、作業所訪問 等

補充的学習を中心とした取組

地域の人々とのつながりの中で学習意欲を高める。

本の読み聞かせ、外国人児童生徒への初期支援、図書館ボランティア、人権図書コーナーの設置、歌唱・楽器指導、家庭科実習支援、体育実技支援、工作・絵画指導の支援、放課後学習会、長期休業中の学習会、丸つけボランティア、小学生対象の英語教室 等



●●● 取組の成果 ●●●

ネットワーク活動に集う人々が、地域の実態に応じた様々な取組を進めています。このことにより、教育的に不利な環境のもとにある子どもたちが、地域の中に居場所を見出し、自尊感情や学習意欲を高め、将来に向けて自己の生き方を豊かに描いていく等、自己実現を図る力を身に付けることにつながります。取組後のアンケートでは、「将来の夢や目標がある」「学校に行くのは楽しい」という項目について、改善が見られました。

県教育委員会では、インターネット社会を生き抜く力を育成するため、子どもたちの情報モラルの育成や保護者への啓発をすすめる取組を行っています。



県教育委員会の取組について

● ネット啓発講座 ●

ネット啓発リーダー（保護者等）が、児童生徒の保護者を対象に、スマートフォン等の危険性や保護者の役割（家庭でのルールづくりの必要性）等について講話を行います。

● みえネットスキルアップサポート ●

小学3年生から中学3年生を対象に、「情報モラル」「情報社会に参画する態度」「法律」「情報技術」「情報機器の利用」の問題を考えさせた後、その結果をもとに、県教育委員会作成の解説資料を参考に、教員が指導することで児童生徒の情報モラル等の向上をすすめます。

● ネットパトロール ●

専門業者が、インターネット上の誹謗中傷や個人情報の流出、問題のある書き込みについて検索し、検知された際には当該校に連絡して、当該児童生徒の指導につなげています。検索は年3回（8月下旬、11月上旬、1月上旬）、それぞれ15日間実施しています。

「ネット啓発講座」は、現在、申し込みを受付中です。希望する学校は、市町等教育委員会事務局を通じて、県教育委員会事務局生徒指導課までお申し込み下さい。みえネットスキルアップサポートと合わせて実施するとより効果的です。

スマートフォン等の使用時間と児童生徒の学力

※「スマートフォン等」とは、携帯電話を含みます。

以下のグラフは、県内の平成29年度全国学力・学習状況調査結果及び児童生徒質問紙の調査結果に基づき、「各教科の平均正答率（％）」と「携帯電話やスマートフォンの使用時間」の関連を示したものです。

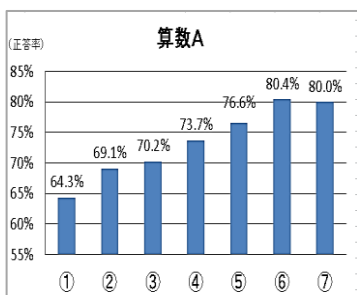
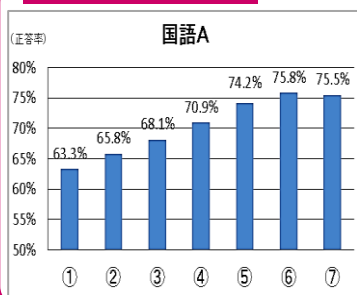
児童生徒質問紙

普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）。

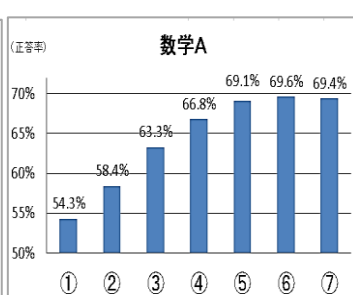
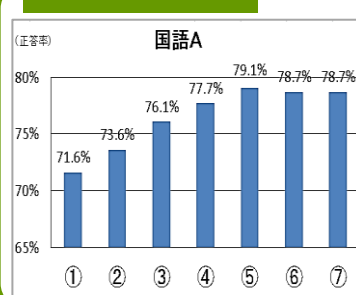
- | | |
|-----------------|-----------------------|
| ① 4時間以上 | ⑤ 30分以上1時間より少ない |
| ② 3時間以上4時間より少ない | ⑥ 30分より少ない |
| ③ 2時間以上3時間より少ない | ⑦ 携帯電話やスマートフォンを持っていない |
| ④ 1時間以上2時間より少ない | |



小学6年生の結果



中学3年生の結果



調査結果を見ると、小学6年生・中学3年生とも、スマートフォン等の使用時間が長くなると、正答率が低くなっています。これは特に、小学6年生において顕著に見られます。このことから、児童生徒の学力の向上のためには、スマートフォン等の適切な使用について、学校や家庭でルールづくりを行う等の取組が必要であることがわかります。

スマートフォン等の使用についてルールづくり等が必要です

平成28年度末に実施した県の調査によると、「他校や他の団体と連携して、児童会や生徒会など、子どもたちが主体的にスマートフォン等の利用に係るルールづくり等を行っていますか（計画段階のものを含む）」という質問に対し、「行っている」と答えた小学校は89.2%、中学校は89.7%でした。

以下はルールづくりのプロセス等の具体例です。

● 他校との連携 ●

町内にある全中学校の代表生徒が集まり、スマートフォン等の問題とその解決に向けた方策を考え、各校の取組につなげた。

● 教育委員会との連携 ●

入学説明会開催時に、市教育委員会から派遣された講師が、スマートフォン等の使用についてルール作りが必要であることを保護者に周知した。

● PTAとの連携 ●

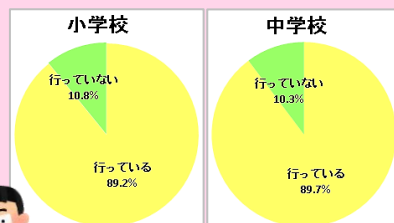
市PTA連合会・市校長会・市教育委員会の三者が連携し、スマートフォン等の使用に関するルール作りを行った。

● その他の団体との連携 ●

携帯会社に依頼し、スマートフォン等を安全に使用するための教室を児童生徒対象に行った。その際、保護者にも参加を促した。

● 学校独自の取組 ●

特別活動で、SNSを通して起こるトラブルを知り、スマートフォン等の使用について家庭内でルール作りを行うことの必要性について学習した。



学力向上 に向けた

具体的な実践事例

【事例28】川越町立川越南小学校 ～確かな学力の定着・向上を目指した取組～

川越南小学校では、3年前より学力向上委員会を設置し、研修委員会の取組とリンクさせながら学力向上の取組を推進しています。



課題を全職員で共有

全国学力・学習状況調査等の結果から見られる課題等を全教職員で共有

- ・県平均から開きが見られた問題を中心に、全教職員で問題を解き、子どもたちに身に付けさせるべき力を確認
例)「長い文章を読み理解する力」、「条件に合わせて書く力」、算数における「図形領域」
- ・学校としての目標値を設定
国語A、算数A、国語B、算数Bのすべてにおいて、全国平均正答率を目標値とする

<学力向上委員会の取組>

基礎・基本の習得

- ・家庭学習
自学ノート、漢字・計算ドリルの活用
「家庭学習の手引き」に、学習時間の目安を「学年×10分」と明記
- ・Sタイム(朝の10分間)の活用
漢字・計算学習(その日のうちに返却しフィードバック)、読書活動
- ・全学年統一の教室掲示物「きき方あいうえお」「はかせ」

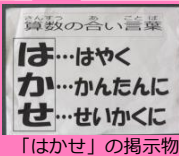
学力補充

- ・第3学年を対象とした補充学習
- ・全学年を対象とした夏休み算数教室

早い段階で
つまづきを解消。

「きき方あいうえお」

「あ」あいてをみて
「い」いいいせいで
「う」うなずきながら
「え」えがおで
「お」おわりまでく



「はかせ」の掲示物

全国学調の再活用

- ・答え合わせから見えてきた課題について、学び直し

注目!

解答の添削や解説も行います。

ワークシートの活用

- ・授業のすきま時間を利用して、子どもたちが自主的に取り組む

注目!

集会での校長先生の励まし
が、子どもたちの意欲向上につながっています。

「書く力」の育成(マス目指導)

国語の授業において強化する単元を設定し、一定の条件のもとで書く活動を意図的に取り入れる

チーム「川越南」

- ・全教職員で育てるリーダー性
ベテランだけでなく若手にもリーダーを任せ、みんなで教職員のリーダー性を育成
- ・若手教員の育成
困り感に寄り添いながらOJTの手法による育成
- ・落ち着いたクラスへの支援
空き時間の教員を中心に積極的な支援体制の確立

<研修委員会の取組>

研修主題

確かな学力を身につけ、自ら進んで学ぶ子の育成
～できるようこびを感じる授業づくり～

川越スタンダードに則った授業改善

- ・見通しを持って主体的に学ぶ姿をめざし、めあての提示、振り返る活動のある授業
- ・学び合いの授業(ペア・グループ学習)

*川越スタンダード…川越町教育委員会が示す授業改善に向けた小・中学校共通のルール



算数科における少人数授業の ありかたの研究

- ・習熟度別、少人数、T.Tの授業における個に応じた、きめ細かい指導の充実

- 1・2年生…T.Tを実施
- 3・4年生…各学級を均等に2分割して編成
- 5・6年生…2学級を習熟度別に4分割して編成

「補充的」、「発展的」な学習のための課題及び教材の工夫。

注目!

活発で明るい雰囲気
の研修会
KJ法やワールドカフェ方式などを取り入れた研修に、グループ編成を工夫することでOJTの効果が増します。



取組の成果

子どもたちの落ち着き 全国学調の結果UP
中堅教員のリーダーシップ 若手教員の成長

川越町立川越南小学校長のコメント

本校では、学校づくりビジョンの最重要課題に「確かな学力の定着・向上」を据え、「心の教育の推進」「健康・体力の向上」などの優先度の高い課題と関連させ取り組んでいます。全体的に若い教職員集団ですが、各リーダーを中心にベクトルを揃えることが成果につながるという共通認識が育っています。また、「川越スタンダード」を授業づくりの基礎とすることで、川越町幼・小・中教職員との絆を感じながら安心感を持って取り組んでいます。